

教育者としての「使命感」・「人間愛」・「創造力」を有する教員の養成を目指す

2015
春
No.30

JUEN

【ジュエン】
Joetsu University of Education

国立大学法人
上越教育大学
Joetsu University of Education
学園だより

特集 新ロゴマークと イメージキャラクター誕生

— 上越教育大学広報の取り組み —





彫刻は冒険と

発見の連続です。

研究室

へようこそ



木や石と「対話」すること

大学には、特に油絵を勉強しようとして入学しましたが、何気なく粘土や木に触れているうちに、絵にはない彫刻の魅力に取りつかれました。大学を修了してからの数年間は、豊かな自然に囲まれた山の中に移り住み、近隣で間伐された木などを譲っていただきながら、彫刻を続けていました。

自然そのものの一部である木や石と「対話」しながら、コツコツと刻み、新しい命ある形を産み出していく充実感、他には得難い楽しさがあります。数徳年もの間、地中に潜み続けていた石：陽を浴びて空に力強く伸びていく木：それらの中に形を見つけ、自らの手で彫り出していくことの難しさと楽しさは、冒険と発見の連続でした。かれこれ20数年作ってきた私自身の数々の彫刻については、未だに「これでいいのかな？」と思うこともありましたが、木や石に向き合い形を生みだしていく過程そのものに、意味を感じて研究しています。

上越教育大学に赴任してからは、子どもの造形活動を支援させていただく機会が多くなりました。子どもたちも、私たち大人の考え以上に



実は、素張らしいアイデアと技術があれば何でも表現できるというものではないようです。頭の中で考えたことが、そのまま形に表現できればことは簡単です。試行錯誤しながら木や石と向き合う一体感のうちに、表現したい手ごたえある実感を発見し、確認できるのです。そして、その実感と結びついた形は、それぞれの時間や場所を過ごす様々な背景を持つ人たちと共有するのに相応しい価値を有しています。学生のみならずにもその価値に、ぜひ触れてほしいと思います。

学生の皆さんへ

木と触れ合うことに夢中になります。のこぎり一本あれば、もう切りたくてしょうがありません。どんなに太い丸太でも諦めることなくギコギコ切り続ける子どもたちの姿を、私は何度も目の当たりにしました。体全体を使って懸命にのこぎりをひき、あたかも木と一体となりながら生まれてくる形は、饒舌な言葉よりも、その子の人となりを表しているように思います。



やめることはいつでもできる『続けること』が大切

陸上競技を通して

私は、大学で陸上部に所属しています。上越教育大学の陸上部は、部員こそ多くはありませんが、一人ひとりがきちんと自分の役割をこなし、練習や課外活動に真面目に取り組むことができる、とても質の高い部活動だと思います。昨年は、男子三段跳で全日本インカレに出場する選手や全国教育系大学陸上競技大会男子100mで3位に入賞する選手など、全国レベルの大会でも活躍する選手が目立ち、陸上部の競技レベルも向上しています。また、上越市 Jr. 陸上クラブの指導にも携わっており、教師としての資質も育んでいます。

私は、高校から陸上を始めましたが、なかなか思うような結果が出せず悔しい思いばかり経験しました。そのため、大学では自分が納得できる結果を残したいと思い、陸上を続けています。高校の頃のように部活動ばかりに集中してはもらえませんが、時間を見つけて自主練習をしたり、全国で活躍する選手の動きを研究したりなど自分で考えてトレーニングに励んでいます。陸上競技は個人種目ですが、苦楽を共にしてきた仲間や熱心に指導して下さる顧問の先生も私の大きな支えとなっています。

今までの努力の成果が「自己ベスト」という形で現れた時には本当に嬉しかったです。陸上を諦めずに続けてきて良かったと思いました。

陸上部は、ほとんどの人が3年の秋で引退します。しかし、私は4年の最後の試合まで陸上を続けていきたいです。今シーズンは、他大学ではなかなかやっていないような綱登りや宙返り運動などの動きも新たに取り入れて練習しています。最後まで諦めずに続けた結果、大学生活最後のシーズンを笑って終われると嬉しいです。



学部3年
自然系コース(数学)
おしま たかし
大島 宗士 さん

松尾 大介(まつお だいすけ) 芸術・体育教育学系 准教授
昭和48年9月生まれ。筑波大学芸術専門学群美術専攻卒業、同大学院芸術研究科修士課程美術専攻修了、平成16年4月上越教育大学に講師として着任、現在准教授。国展(国立新美術館)を中心に作品を発表している。

特集

新ロゴマークと イメージキャラクター

誕生までの道のりを、制作の担当をした
上越教育大学広報推進ワーキンググループ
の視点で追いかけてよう!

誕生!

国立大学が2004年に法人化して以来、各大学は、独自のカラーやブランドイメージを定め、統一的な広報戦略を立ててきました。それにより、各大学はより良い学生を集める教育の質と大学のイメージを向上させると同時に、大学のブランドイメージを地域や国内外に広めるという循環を模索しています。上越教育大学も例外ではなく、近年は戦略的な広報に注力しており、その第一歩として今回、ロゴマーク・イメージキャラクターを制定しました。

ロゴ企画 スタート START

STEP 1 2013.5.16

大学広報の在り方
検討ワーキング開始!

大学広報の在り方検討ワーキンググループにて広報活動の在り方を考える上でコミュニケーションマークの必要性について意見される

STEP 2 2013.6.18

コミュニケーション
マークとは?

● コミュニケーションマーク作成にあたり他大学や企業を参考に作成方法を学ぶ
● スローガンの作成を検討

STEP 3 2013.7.1

スローガンを
考える!

スローガン案
① 新しい学びを創る
② 叡知の継承と創造(創発)

STEP 4 2013.8.29

ロゴマークは広報
ワーキンググループ
で作成

● マークは案として3~4点作成する

STEP 5 2013.9.6

マーク案の
検討開始

● 3案が候補に上がる
● スローガンについても引き続き検討

STEP 13 2014.3.3

ロゴマークが大学に
受け入れられた!

● 学内フォーラムでの意見への回答が、情報・広報委員会です承された
● 広報ワーキンググループが2年目に向けて翌年度からのグループ名を「広報推進ワーキンググループ」とした

STEP 12 2014.2.13

ついにロゴマークの完成!
学内の反応は…?

● スローガンの決定
● ロゴマークを開示し学内フォーラムで教職員から意見を募り反映させる

STEP 11 2014.2.3

コミュニケーション
マークが決定!

● マークはA案が候補となる
● スローガン候補は2案のまま

STEP 6 2013.9.26

まだまだ先は長い…
スケジュールを再確認!

● スローガンを再検討 →13案まで絞られる
● ビジュアル戦略のスケジュールを確認

STEP 10 2014.1.5

学内への今後の
報告方法の確認

● 学長への提案書の決定
● 情報・広報委員会への報告や学内フォーラムにて意見募集の旨を確認

STEP 10 2014.1.17

情報・広報委員会にて
現状報告

STEP 7 2013.10.17

2案に絞る!

スローガンとマークを2案に絞る
スローガン案
① 未来を学び続ける
② 未来をつくる、志をはぐくむ

STEP 8 2013.11.20

リミットは3月14日
完成が見えてきた!

ロゴマークの教授会での決定報告は2014年3月14日を予定

STEP 9 2013.11.28

まずは
ロゴタイプが決定!

● ロゴタイプの決定
● スローガンは2案で学長の意見を仰ぐことに

国立大学法人
上越教育大学
Joetsu University of Education

2013.12.4
ロゴマーク
提案書の検討
細かな修正を行う



ロゴ企画 ゴール

10月30日
記者発表

スクリーン

イメージキャラクター企画

スタート

STEP 1
2013年11月、ついに企画始動!

イメージキャラクター募集についての大まかなスケジュール・募集要項を検討



STEP 3
2013.12.4
応募期間の決定

- 応募期間を2014/4/7~2014/5/30とする
- デザイン案はフリーハンド可とした

STEP 2
2013.11.28
ロゴマーク企画と平行しつつスケジュールの検討

前回に引き続き募集要項・募集様式・詳細なスケジュールを検討



STEP 4
2014.1.5
3月に卒業・修了する学生も応募できるように期間を変更

- 応募期間の変更 2014/3/10~2014/5/16に
- 学内選考期間は 2014/6/16~2014/6/30
- 応募対象を在学学生、卒業生・修了生、教職員とした

2014.1.22
学長に募集要項の了承を得る

STEP 5
2014.3.10
応募期間開始

広報ワーキンググループ委員長「どれだけ応募があるのか不安ですが…たくさんの応募を願っています」

STEP 6
2014.4.7
広報ワーキンググループ2年目突入!

- 広報ワーキンググループ名を「大学広報の在り方検討ワーキンググループ」から「広報推進ワーキンググループ」とした
- 活動内容は
 - ① 大学ブランドイメージの確立
 - ② 地域との協働
 - ③ 広報活動に関する検証

検討中一回休む

STEP 7
2014.4.15
ロゴマークとの予定を決定

イメージキャラクター発表とロゴマークの発表を同時にすることを決定

STEP 8
2014.5.15
現在応募期間中…選考方法の準備

- イメージキャラクター募集状況の確認
- 次回選考候補(案)を決定する

STEP 9
2014.5.16
応募期間終了

学生や教職員による22作品の応募を確認!

ティーブレイクで一息つく

STEP 14
2014.7.25
最終選考 1作品決定!

トップミーティングの結果、1位作品の採用が決定したがキャラクターの詳細について再度学長へプレゼンすることとなった



STEP 15
2014.8.21
イメージキャラクターのブラッシュアップ

- 学長への再プレゼンについて資料の確認
- キャラクターの色など細部の調整を行う



STEP 16
2014.9.4
委員会への報告

- 情報・広報委員会へ持ち込む
- 学長へのプレゼンを経て原案決定

STEP 12
2014.6.30
学内選考(投票)終了

- 有効票数278票
- 上位2作品はなんと3票差の接戦となった!



STEP 17
2014.10.23
イメージキャラクター完成!

イメージキャラクターの愛称を「マナーブ・デ・ジョーキョー先生」に決定!

STEP 11
2014.6.16
学内選考(投票)開始

選考候補16点で学内投票開始! トップに躍り出るのは…?

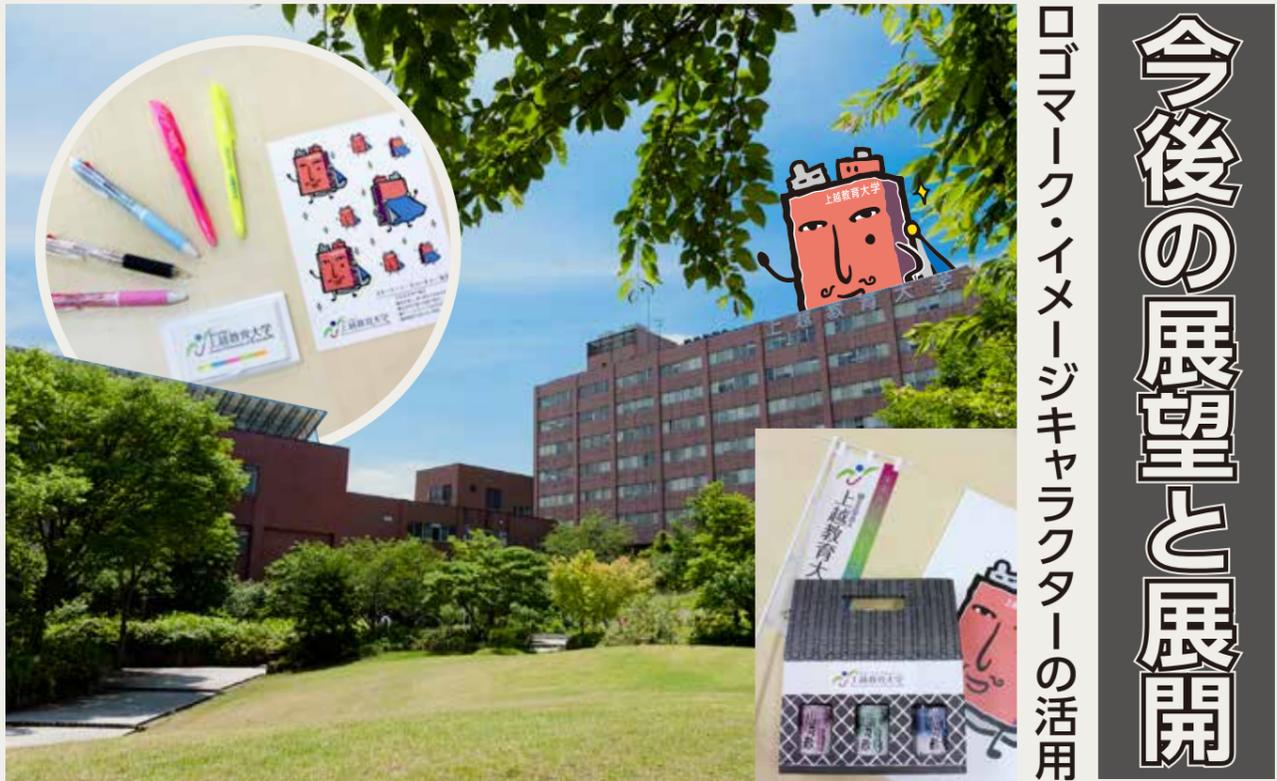
STEP 10
2014.5.28
ワーキング内選考

22作品の中から学内投票による選考候補(案)として16点を決定

イメージキャラクター企画

10月30日 記者発表





今後の展望と展開

10月30日に上越教育大学は、新ロゴマークとイメージキャラクターを正式発表した。

同大学は日頃より教育、研究、地域への貢献事業、ボランティアなど、様々な面で大学ブランドを支える活動、実績を重ねている。しかしながら、それは対外的に発信しなければ評価されることも難しい。広報活動はそのような発信の面を強化し、学内だけでなく卒業生・修了生や地域とより繋がることで、ブランド力の底上げを図っていく狙いだ。

新ロゴマークは既に大学案内を始め、広報誌やノベルティグッズへの展開を行っている。さらなるオリジナルグッズへの展開が現在の課題である。商品化により見える形でユーザーの手に置かれることは認知に効果的で不可欠だ。また、現在はスマートフォン等の普及でメディア媒体も活用しやすいため、モノだけでなく様々な媒体で広く認知度を上げていく方向だ。

現在大学は、オリジナルグッズのアンケートを行っており、購入を想定される在学生・教職員の意見を募っている。「作成するからには歓迎されるものを作成し、グッズは学内だけでなく、外でも広く販売できる体制を取れるよう努力したい」と広報推進ワーキンググループは語る。2月現在、菓子土産について検討中である。大学だけでなく、上越地域の良いものPRできるような商品を目指し、話し合いを続けている。

キャラクターについては着ぐるみを作成し、北陸新幹線開通の上越妙高駅イベ

ントで初お披露目となる。上越市の大学として、新駅開業のような大きな出来事は大学への交通手段が増え、新たな地域の受験生を呼び込む絶好のタイミングだ。このチャンスを逃さずに大学PRに力を入れ、結果に繋げようと邁進中だ。

今回のロゴマーク、イメージキャラクターは、より広く大学をアピールするため、今後の広報活動に統一感を持たせることを目指し制定された。そのため、ロゴマーク、イメージキャラクターは単独でも上越教育大学のものとして認められるように受験生、在学生・教職員、地域社会、他大学等に対して定着の活動が必要となる。目標は全国に正しいイメージをもって大学が認知されることだ。

今回の発表で、新たな広報活動がスタートとなる。これからの上越教育大学の動きに注目だ。



開発中のオリジナルパッケージを使った土産菓子

新ロゴマークとイメージキャラクター

【上越教育大学では、このたび新しいロゴマークとイメージキャラクターを制定しました】

ロゴマークとは、コミュニケーションマークとロゴタイプを組み合わせたものを指します。コミュニケーションマークのモチーフタイトルは「緑の小道」(学内に保全されている雪国の里山)とし、具体的なモチーフは、古くからそこに生育し、風雪に耐えて緑を維持し、春を経て清々しい若葉とともに可憐な花や実をつける植物(例えば、オクチョウジザクラ、オオバクロモジ、ヒメアオキ、ハイイヌツゲなど)で、雪国に所在する本学を特徴づける図案としました。

イメージキャラクターは、学内の教員・職員・学生(卒業・修了生を含む)を対象に公募を呼びかけ、22作品の応募がありました。

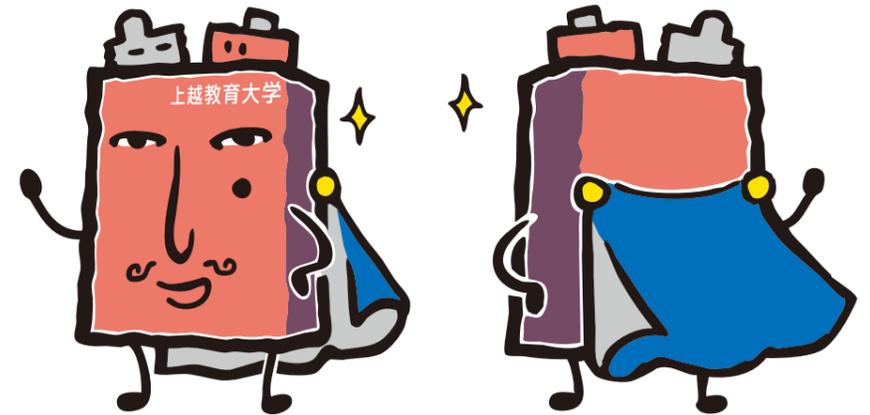
た。さらに、学内構成員による投票をおこなった結果、得票数が1位だったキャラクターを採用することとなりました。我々や地域の方々にとって、ある意味で見慣れた存在であり、本学を特徴づける校舎をモチーフとしたこのキャラクターは、まちがいなく上越教育大学を連想させる容姿をしています。

あわせて本学のスローガンを、「未来をつくる、志をはぐくむ」としました。これまでと同じく、みなさまの期待に応えることができるように、また、これまで以上に上越地域と上越教育大学の知名度を上げていけるように、ご支援とご協力をいただければ幸いです。

ロゴマーク(抜粋)



イメージキャラクター



【イメージキャラクターの愛称】 マナーブ・デ・ジョーキョー先生

【作品の説明】
上越教育大学の校舎をモチーフとしたキャラクターです。未来に向かって飛躍するためのマントをなびかせ、額の大学名を、その志のように光り輝かせています。

【イメージキャラクターのプロフィール】

- 雪に耐えうる丈夫な体。
- 生涯学び続ける強い意志。
- チャームポイントは泣きぼくろ。
- 感動屋で涙もろい性格。



媒体も活用しやすいため、モノだけでなく様々な媒体で広く認知度を上げていく方向だ。現在大学は、

Q&A

- 1 上越教育大学の印象
- 2 大学で研究していること
- 3 好きな日本料理
- 4 上越でよく行く場所・店
- 5 日本に来て驚いたこと
- 6 日本にいる間にやってみたくらいこと
- 7 上越教育大学に来た理由



[中国] キョウさん
(喬 宏成)
23歳 言語系コース (国語)

- 1 教職員も学生たちも高い素質があると思います。環境がきれいで緑に囲まれています。設備も整っています。
- 2 国文学を研究しています。国文学について論文を書きたいです。そして、日本語能力試験の一般を目指し、勉強しています。
- 3 刺身・ラーメン
- 4 上越教育大学附属図書館
- 5 雪がとてつも積もることです。カラスが大きくて多いことです。
- 6 日本を旅したいです。日本の文化を理解したいからです。
- 7 上越教育大学は国立大学で、学習の雰囲気がとてもいいと思います。そして、学校の国際交流センターによる活動や行事などいろいろあります。この大学は教育的な大学で私も先生になりたいので、上越教育大学に来ました。



[台湾] シュさん
(朱 愷芸)
21歳 芸術系コース (美術)

- 1 とても広いです。(私の大学よりも)
- 2 美術。特に油絵
- 3 全部?特にはないです。
- 4 イオン周辺
- 5 東京の交通機関の複雑なところ。カラスが多い。
- 6 嵐のコンサートに行きたいです(笑)。あの雰囲気を体験したいです。
- 7 試験を受けるチャンスがあったので一応やってみてここに来ることができました。



[メキシコ] アレハンドロさん
(SALGADO REVELES MARIO ALEJANDRO)
34歳 学校臨床コース

- 1 上越教育大学ではいろいろな人がもてなしてくれます。
- 2 日本人の心理学
- 3 ラーメン
- 4 コンビニ・ジャカッセ・スターバックス・コーヒー
- 5 自殺・いじめ・過労死・ひきこもり・性などのタブーなテーマが多いと思う。
- 6 自殺の背景について研究したい
- 7 学校のシステムや日本人の心理学の状況について勉強するため



[キューバ] ダヤナさん
(SANCHEZ GUERRA DAYANA)
22歳 学校臨床コース

- 1 先生は優しくて、親切です。宿舎で留学生と一緒に楽しんでいます。冬はいい経験になりました。雪はとてきれいです。
- 2 教材としてアニメを使うこと
- 3 ラーメン・お好み焼き
- 4 パリスタコーヒーショップ
- 5 店のサービスがすごい
- 6 温泉に行きたい。花見。着物を着てみたい。
- 7 国に帰ったら日本語の教師になりたいので、上越教育大学に来ました。



[コスタリカ] ファンバさん
(CHAVES CASTRO JUAN PABLO)
31歳 美術系コース (音楽)

- 1 とても良い大学だと思う。小さい大学なので皆さんと知り合いになれる。先生と学生は親切でまじめな人だと思う。
- 2 日本の伝統的な楽器とコスタリカの音楽リズムの混合
- 3 ラーメン・すし
- 4 てるちゃん(ラーメン店)とてもおいしいと思う。
- 5 国がとてきれいで、日本人の親切なところ。田舎の人(新潟、長野、石川、富山)は特に親切であたたかい人だと思う。その県は大好きです。
- 6 富士山に登る。沖縄・広島・長崎に行きたい。
- 7 教員研修のため。日本の伝統的な音楽の専門家の先生(玉村先生)がいるから。



[ブラジル] エリカさん
(藤山広美エリカ)
26歳 言語系コース (国語)

- 1 迷路〜慣れるまで一か月かかりました。留学生のためにいろいろ考えたり、活動を行ったりしています。他の大学ではあまりないと聞きました。
- 2 日本語の教育とバイリンガル教育について。特に在日ブラジル人のアイデンティティと言語学習のつながりについて研究しています。
- 3 すしが大好きです。
- 4 留学生みんなよくBARISTAカフェと知遊堂に行きます。BARISTAカフェのコーヒーは濃くておいしいです。高田公園。
- 5 日本に来る前にとてもきれいなところだと聞いていましたが、実際に来て、見て、町がとてきれいで、ゴミが全然なくて驚きました。
- 6 富士山に登ってみたいです。日の出を富士山から見てみたいです。
- 7 ブラジルで日本語とポルトガル語の教師として働いていました。新潟県費留学生として来ていたので、新潟県内の3つの大学から選ぶようにいわれ、教育に関する大学が上越教育大学でした。日本の四季がはっきりしていると知っていて、自然が豊富な場所がいいなと思い、上越教育大学にしました。



[スロベニア] ヤコブさん
(MAVRIC JAKOB)
23歳 学校臨床コース

- 1 いい大学です。先生と学生はみんな優しい人です。学生宿舎の近さはとても便利だと思います。
- 2 日本のマナー
- 3 ラーメン
- 4 BARISTAカフェ・上越教育大学附属図書館
- 5 風邪や病気のときにみんなマスクをつけること
- 6 いろいろな神社やお寺を見たい
- 7 文部科学省の日本語・日本文化研修留学生として10月に来ました。日本語がもっと上手になるために来ました。日本のマナーとスロベニアのマナーの違いを研究するために来ました。



編集後記

留学生のみなさんも元気に頑張っていってほしいです。私たちも負けてはいられませんね!

森田 真衣
学部2年 芸術系コース (音楽)

[上越教育大学のイメージキャラクター]
マナー・デ・ジョーキョー先生

[プロフィール]

- 気品高い。雪に耐える丈夫な体。
- 生涯学び続ける強い意志。
- チャームポイントは泣きぼくろ。
- 感動屋で涙もろい性格。



[フィリピン] ピアさん
(LEE PIA BENGAN)
34歳 美術系コース (音楽)

- 1 上越教育大学は保守的な学校であるが、教育の質は高いと思う。
- 2 小学校の音楽のカリキュラム
- 3 たこ焼き・ラーメン・日本のチョコレート
- 4 イオンモール・スーパー
- 5 日本の技術
- 6 上越以外の他のところに行ってみたくらい。日本の文化を感じたい。
- 7 教員研修のため



混声合唱団、テーマは「楽～GAKU～」

混声合唱団は今年「楽～GAKU～」をテーマに活動します。団員やお客さんが音「楽」を「楽」しむこと、「GAKU」は「学」ぶということも意味しています。近年は活発な活動により団員もお客さんも楽しめる機会を増やしており、2015年も新たな演奏会を企画予定です。

活動の目玉である毎年末の定期演奏会は32回も続く伝統行事です。商店街を始め地域の方からは楽しみにしているという話を聞くことができ、とても嬉しい気持ちで活動に取り組んでいます。

やさしいハーモニー！
合唱の魅力とは？

合唱は、お客さんに直に声が届くことが長所です。マイクの音でなく、直接、声を届けることで合唱ならではの音のよらかさ・あたたかさを感じてもらえるところが醍醐味だと思います。また、声だけではなく表情でも表現するので、明るい歌を歌っていれば自然と笑顔になれます。その表情が団内のコミュニケーションに繋がり、そして団員も笑顔になるのです。もちろん、合唱を見て、聞いていただいたお客さんにも笑顔になってもらえた

ら、と思っています。

私たち混声合唱団の特徴は、一人一人の個性を活かす合唱を目指しているところです。コンクールに出場しないからこそできる方針です。個人の声量やクセなど、全体でまとめる特徴は本来の合唱では抑えられてしまっていますが、私たちはそこを抑えずに、どうしたらその個性を活かしていけるかを考え、合唱を作り上げていきます。そんな私たちの日々の活動はブログで確認することができます。「JMCC」で検索できますので、是非ご覧ください！



DATA 平成26年12月現在
部員数/30人
活動日/毎週月、水、金曜日
18:30~
活動場所/音楽棟201
活動実績/定期演奏会、
地域演奏会 ほか
ブログ/
<http://d.hatena.ne.jp/jue-mixed-chorus/>

【取材協力者】
学部2年 自然系コース(理科)
樋原 美友希

女子アイスホッケー部

DATA 平成26年12月現在
部員数/27人
活動日/毎週水曜日
活動場所/リージョンプラザ上越
活動実績/全国女子アイスホッケー
選手権大会 出場

【取材協力者】
学部3年 言語系コース(国語)
室橋 愛



女子アイスホッケー部ではほとんどの部員が初心者からのスタートです。試合で勝つことはもちろん大きな目標ですが、この競技を通して1人1人の人間性を高めることを目的としています。

勝利に向かって一直線！
氷上の格闘ガール★

部活動は市内のアイスリンクで行われ、10～5月の間だけ開かれるため、一回一回の練習を大切にしています。部員だけでなく、社会人チームの方や男子アイスホッケー部員も加えた練習を行うこともあります。

活動日は週に一回ですが、監督・コーチがいなくてもそれぞれが誘い合わせて自主的に練習することが多く、部員の意欲が高いことが自慢です。初心者ばかりということもあり、先輩、後輩の垣根を越え、教え合い切磋琢磨しながら活動しています。

マネージャーも寒いリンクで練習をずっとサポートしてくれているので、プレイヤーだけでなく、チーム全体が協力し合う良い雰囲気づくりができており、仲間に恵まれた部だと思います。その素晴らしい仲間と試合に勝ったとき、円陣を組み、スティックを挙げている瞬間は格別です。

女子アイスホッケー部が
仲良しな理由！

練習後のミーティングはみんなでお菓子などをもち寄り、和やかな雰囲気で行われます。

女子アイスホッケー部は全国でも数が少なく10数チーム程なので、試合はいつも泊まりがけの遠征です。試合後は遠征先の地を部員全員で楽しむので、回を重ねることに試合の経験値が増えるだけでなく、部員同士の距離もどんどん縮まっています。こうして絆を深めていき、日々の練習とあわせて、よりよいチームプレイに繋がっていきます。



知識基盤社会を主体的に生き抜く生徒の育成

～情報や他者と適切に関わる力を視点として～

知識のグローバル化が進む二十一世紀は「知識基盤社会」と言われており、私たちの回りには解決の方策が明らかではない課題が山積しています。それらの課題を解決するためには、膨大な情報を基に新たな知を主体的に生み出す力が必要になります。また、意見や立場の違う人たちが集まって知恵を出し合い、討論し、協力するといった、他者と関わる力も必要になります。

そこで私たちは、生徒が判断し意思決定をしたり、協働的に解決にあたりたりする上で、情報や他者と適切に関わる力を一人一人の生徒が身に付けることが大切であると考えました。

研究第2年次の今年度は、探究過程の「まとめ・表現」の場面における発表の質の向上を目指し、各場面において手立てを工夫しました。具体的には、単元や題材に応じて、協働的な学習や協調的な学習を仕組み、他者との関わりに重点を置いた学習の場を設定しました。

また、単元の冒頭に情報や他者と適切に関わる具体的な姿を、評価基準として示しました。そのことにより、この単元や題材にはどのような本質的な問いがあり、どのような姿が適切であるのかを、教師と生徒が共有して学習を始めることができました。

技術・家庭科

よりよい
福祉用具を
「計測・制御」
を利用し
開発する



除染土
処理問題の
解決方法を
仲間と
話し合う



道徳

民意を反映
する選挙制度
について考え
を発表する



社会科

英語科

日本の
防災技術を
英語で発信し、
意見交換する



持続発展科

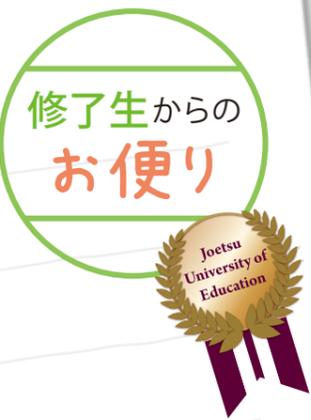
地域の人から
上越を巡る
魅力的な
ツアーの
意見を聞く



暮らしを
豊かにする
デザインを
考え、仲間と
話し合う



美術科



子どもの声を 生かして



小学校教員としてちょうど十年勤め、
教職大学院へ進みました。
私の教職大学院との出会いは、勤務
校で「学校支援プロジェクト」の支援
を受けたことです。当時、教職大学院
担当教員の研究室の皆さんと国語の授
業づくりを協働して行う機会を得まし
た。授業づくりを行う中で、国語の魅
力に惹き込まれていき、これまで、これ
について専門領域はなかった私にとつ
て、学校支援プロジェクトとの出会いは
ターニングポイントとなりました。
そして教職大学院では、支援を受け
入れる側から支援する学校へ入らせて
いただくという立場へ。授業支援して
もらった経験を思い出したり、アドバ
イザーの先生方から助言をいただきな
がら、支援校の研究推進のお手伝いを
させていただきました。二年間の支援
プロジェクトを通じて、国語の授業づ
くりの在り方と、連携する大切さを学
びました。今は、その学びを現場に選
元することが目標です。
今年度は五年生を担任しています。授
業では子どもの興味や問題意識はどこ
にあるか。また、子どもがどのような
思考をしているのかを探るため、子ど
もの声に耳を傾けるようになりました。
秋に国語で単元を開発。子どものふる



小川 高広
(おがわ たかひろ)

新潟県長岡市出身。新潟県内の公立小学校で10年の勤務を経て、教職大学院教育実践リーダーコースへ。平成26年3月修了。現在は上越市立下黒川小学校に勤務。学会へも積極的に参加。

さと子どもの未来について考えるという単元です。地域の人や家族、親戚の方の声を取材し、印象に残った言葉を引用して自分の考えをつくっていきます。そして、この授業を通して、友達とのかかわりの中で考えが変容したり深まったりする姿も見られました。今後は、これまでの教師主導型の授業を、子ども自ら知識を創造していくような授業にシフトチェンジしていくことが課題です。
最後に・・・自宅から上越教育大学まで数分という地の利から、附属図書館を今でも利用させてもらっています。卒業生や修了生だけでなく、市民の方も利用できるとのこと。ぜひ、足を運んでみてください。

上教大 なんでも 掲示板



たつのちとし 辰野千壽教育賞授与式を挙 行 ～優秀賞受賞者の喜びの声～

平成26年10月3日(金)に「第7回辰野千壽教育賞」授与式を挙りました。今回は優秀賞2名に賞状が授与されるとともに副賞が贈呈されました。

優秀賞を受賞した福田 恵氏(徳島県美馬市立江原中学校教諭/徳島県立総合教育センター長期研究員)のテーマは「生徒の学ぶ意欲を高める英語授業の工夫 ～生徒主体の言語活動を通して～」、堀井 利衛子氏(新潟県立上越特別支援学校教頭)のテーマは「認知特性に応じた学習支援プ

ログラムの構築 ～自己有能感を高める状況設定と認知特性に応じた学習方略の提案を軸として～」というもので、いずれも児童生徒の自己有能感を高める取組として、意義あるものと高く評価されました。

同教育賞は、平成20年度に創立30周年を記念し、初代学長である辰野千壽氏の長年にわたる教育・研究業績の精神を受け継ぎ、我が国の教育に多大な影響を与える優れた教育・研究の振興に貢献するため創設され、7回目となる今回は応募総数が15件でした。



福田 恵氏
(徳島県美馬市立江原中学校教諭/徳島県立総合教育センター長期研究員)

【テーマ】生徒の学ぶ意欲を高める英語授業の工夫 ～生徒主体の言語活動を通して～

この度は栄誉ある辰野千壽教育賞優秀賞を受賞できましたことを大変光栄に思っております。関係者の皆様始め、今まで研究に関わってくださった先生方、何より一緒に授業を作ってきた生徒の皆さんに心から感謝いたします。

本研究は、「未知の可能性に満ちた子どもの能力を発揮させるために学習意欲を高めたい。そして、英語力とともに生きる力を培わせたい。」という思いで、生徒主体の言語活動を中心に実践を重ねました。その中で、生徒が成功体験とともに自己有用感を高めることで生み出された力が、集団としての良好な人間関係の構築とコミュニケーション能力を向上させたことをまとめました。

今後も、学習者の心理を大切に、偉大な研究をされてきた辰野千壽先生の教育賞受賞を励みに、子どもの心に寄り添いながら、豊かな心とコミュニケーション能力の向上を図れる実践を続けていきたいと思っております。



堀井 利衛子氏
(新潟県立上越特別支援学校教頭)

【テーマ】認知特性に応じた学習支援プログラムの構築
～自己有能感を高める状況設定と
認知特性に応じた学習方略の提案を軸として～

第7回辰野千壽教育賞優秀賞をいただきましたこと、心から感謝いたします。2003年からの2年間、上越教育大学大学院で派遣教員として学ばせていただきました。このときご教示いただいたことが私の教育実践の土台になっていることを改めて思います。

学習に困難がある子どもたちのために、学習への動機付けの介入と学習方略の提案を関連付け、認知理論と教育実践をつなぐ具体的な実践研究の蓄積を図ること。また、この蓄積が学校教育現場で有効に活用されるために、授業場面での状況設定の工夫や支援者とのかかわりについて研究を深めること。これらをテーマに、子どもたちとの出会いの中で、一つ一つ実践を積み重ねてまいりました。

これからも、子どもたちと一緒にいられる幸せを感じつつ、学校でできることは何か、学校だからこそできることは何かを問い続け、新たな実践を展開していきたいと考えています。



上越教育大学では、地域連携推進室が中心となって、地域及び大学等との連携に組織的に取り組み、かつ、積極的に推進しています。平成26年度の基幹的な地域連携推進事業として、戦略的な地域教育連携事業、上越地域教育委員会との連携推進事業、上越市学校教育支援事業などがあり、様々な事業を展開しています。

上越教育大学・新潟県立看護大学連携公開講座を開催

7月12日(土)、新潟県立看護大学において、本学と新潟県立看護大学との連携公開講座を開催しました。この連携公開講座は、新潟県立看護大学と共に連携推進事業の一環として毎年開催しているものです。

今回は「発達障害と子育て支援～医療、福祉、教育の役割～」をテーマとして、新潟県立看護大学教授の境原 三津夫氏、上越教育大学教授の加藤 哲文氏、新潟いなほの会役員の沼田 夏子氏、上越市すこやかなくらし支援室主任の梶原 亜紀子氏の4名の講師をお迎えし、各講師におけるそれぞれの立場や経験に基づいた現在実践されている活動などについて、基調講演をいただきました。また、基調講演終了後はパネルディスカッションも行いました。

当日は、教育職、福祉職、保健・医療職、行政関係者など約200名の方より参加いただけたことにより、今回の連携公開講座におけるテーマについて、その関心の高さがうかがわれ、大変有意義なものとなりました。



文化講演会「尾木ママ流 共感子育て」を開催

11月1日(土)、上越文化会館において、教育評論家の尾木 直樹氏を招き、文化講演会「尾木ママ流 共感子育て」を開催しました。

この文化講演会は、市民の学習機会の充実を図ることを目的に上越市と本学の主催で毎年開催しています。また、今年は「上越市教育の日」制定記念式典及び上越市小中学校PTA連絡協議会創立10周年記念式典との同時開催となり、記念式典や文化講演会の開催を通して、学校・家庭・地域の連携を推し進め、教育推進の機運の醸成を図る一躍も担うこととなりました。

当日は、教育関係者、上越市小中学校PTA連絡協議会員、一般参加者など1300人以上の観客を前に、様々なメディアに出演されながらも気さくで親しみのある軽妙な語り口で、また、深い知見とこれまでの経験に裏付けされた講話は、身近な話題から、より踏み込んだ内容まで多岐にわたり、会場につめかけた聴衆は最後まで熱心に講師の話に耳を傾けていました。

上越教育大学地域貢献事業 「外国人児童生徒への修学支援プロジェクト 冬休み宿題教室」を実施

12月22日(月)、本学の講義室において、冬休みの宿題教室を実施しました。

これは平成26年度上越教育大学地域貢献事業「外国人児童生徒への修学支援プロジェクト」によるもので、上越地域在住の外国につながる児童生徒を対象に支援するものです。

14名の外国人留学生と日本人学生が参加し、12名の小中学生が持参した冬休みの宿題の中で、ひとりでは取り組むことが難しい課題を中心に取り組みました。

この宿題教室は、夏休みにも実施しており、今後も継続していきたいと考えています。



教員就職率

全国第1位
教職大学院
全国第5位
学校教育学部

文部科学省が平成27年1月30日に「国立の教員養成大学・学部(教員養成課程)」の平成26年3月卒業者の就職状況を発表しました。

本学教職大学院は、教員就職率100%で全国第1位となりました。

修了者(現職教員学生を除く)は36人で、教員就職率100%を達成した教職大学院の中で、修了者(現職教員学生を除く)を30人以上輩出している教職大学院は上越教育大学だけです。

また、学校教育学部の教員就職率は、80.9%で、全国44大学・学部中第5位となりました。(卒業者数から大学院等への進学者と保育士への就職者を除いた教員就職率)

上越教育大学では、教員を目指す学生に次のような支援を行っています。

- 1 公立学校校長職などの豊富な経験を有するキャリアアドバイザーによる、小論文・自己PR文の添削指導
- 2 キャリアアドバイザーによる、模擬面接(個人・集団面接、集団討論等)の指導
- 3 学内外講師による充実した教員採用選考試験対策講座の実施(年間約40回開催)
- 4 大学教員による「進路希望に関する面談」の実施
- 5 教員採用試験学習支援システムの活用による支援

大学院生の財政支援制度を拡充

■教員採用候補者名簿登録期間延長制度を利用して修学する者への授業料免除
教員採用候補者名簿登録期間延長等の特例措置を利用して修学する者を対象に、授業料の全額又は半額を免除します。

■社会経験者への修学(学び直し)支援
大学卒業後5年以上の社会経験(会社勤務、アルバイト、子育て、留学、大学院修学等)を有する教員免許状所有者で、入学時における年齢が50歳未満の者を対象に(派遣教員は対象としない)入学初年度のみ授業料の半額を免除します。また、世帯用学生宿舎を優先的に貸与します。
〔平成28年度入学者から適用〕

■教育訓練給付制度(専門実践教育訓練)
本学の大学院学校教育研究科専門職学位課程の「教育実践リーダーコース」と「学校運営リーダーコース」は、平成27年度から、厚生労働省による専門実践教育訓練給付金の対象となる講座に指定されました。

※教育訓練給付制度とは、一定の条件を満たす雇用保険の一般被保険者(在職者、又は一般被保険者であった方(離職者)が、厚生労働大臣が指定する教育訓練講座を受講し修了した場合、本人が教育訓練施設に支払った経費の一部を支給する雇用保険の給付制度です。
詳しくは、厚生労働省ホームページにてご確認ください。



大学院説明会

大学院の概要・入試説明・現役大学院学生等の体験談のほか、全コース(科目群)の教員や事務担当者が質問に答えます。(本学開催は、学生宿舎及び附属図書館の見学も可能です。)

大学院説明会	上越	5月17日(日) / 9月13日(日)	上越教育大学(新潟県上越市山屋敷町1番地)
	東京	5月31日(日)	サンシャインシティ コンファレンスルーム(東京都豊島区)

大学院入学相談会

大学教員及び事務担当者が相談を直接お受けします。

大学院入学相談会	札幌	5月23日(土)	アスティ45ビル(札幌市中央区北4条西5丁目)	仙台	6月21日(日)	TKPガーデンシティ仙台(仙台市青葉区中央1-3-1)
	京都	6月6日(土)	メルパルク京都(京都市下京区東洞院通七条下ル東塩小路町676-13)		10月3日(土)	TKPガーデンシティ仙台(仙台市青葉区中央1-3-1)
	盛岡	6月20日(土)	ホテルメトロポリタン盛岡(盛岡市盛岡駅前通1-44)	名古屋	6月27日(土)	Time Office 名駅(名古屋市中村区名駅2-41-10)
	東京	6月13日(土) / 9月5日(土) / 10月4日(日) / 12月19日(土) / H28年1月9日(土)		キャンパス・イノベーションセンター東京(東京都港区芝浦3-3-6 JR田町駅前)		
		6月28日(日) / 9月26日(土)		表参道・新潟館エスバス(東京都渋谷区神宮前4-11-7)		

※詳細については、本学ホームページをご覧ください。
※参加ご希望の方は、各会場の開催日の3日前までをめぐりにメールまたはFAXでお申し込みください。なお、当日参加も可能ですが、事前申込みにご協力願います。

明るさ、緊張、不安

小学校の校庭に菜の花が咲いて、昼食時の子どもたちの元気な声とともに、のどかな雰囲気が伝わってきます。黄色い菜の花は、代表的な春の花の一つです。黄色のイメージとして、明るい、快活、楽しいなどのほかに、緊張や不安もあるようです。暖かくなって、これから何かを始めよう、希望に満ちて出発しようという多くの春に相応しい色です。菜の花が愛でられるのも宜なるかなでしょう。その一方で、新しいことが始まったり、新しいことを始めようとするときは、緊張や不安が伴います。

日本の学校の始期は概ね4月であり、季節的にも最



学長 佐藤芳徳

適だと思えます。4月に、その年度の計画を立てたり、何か新しいことを始めようとする気持ちになるのは、ごく自然なことであり、楽しいことでもあると思います。できれば、3年後や10年後のことも考えてみて下さい。自分のこと、教育のこと、日本の社会のことなどを中長期的に展望することは、期待の面と不安な面とがあります。

上記の句の作者正岡子規が活動したのは、明治時代です。明治の時代でも、お昼は楽しく心弾む時間であったことでしょう。教育においても、古くから脈々と受け継がれてきた時代を越えて通用する真理ともいべき基礎があります。教師一人ひとりがそれは何かを考え、自分の答えを見つける必要があります。また、明治時代には全く存在しなかった、あるいは思いもかけなかった課題も現在では数多く存在します。それらの課題については、自分一人ではなく、多くの人たちと協働で解決策を見いだすことが有効でしょう。

いまを生きるために、将来を実りあるものとするために、明るい希望を持つことが大切です。また、新しい一歩を踏み出すためには、緊張や不安も必要です。緊張や不安のないところに、新たな飛躍は望めません。過度の緊張や不安は禁物ですが、少しだけ無理をして、新しいことに挑む姿勢が大切なのではないでしょうか。

芸術・体育教育学系 教授 加藤 泰樹

プロフィール

平成2年9月、講師として着任。助教授を経て、平成13年8月、教授に就任。その後、附属小学校長、学校教育実践研究センター長、そして副学長を歴任。専門は体育原理、体育・スポーツ哲学。「身体」、「人間性」に着目した体育・スポーツの哲学的探求及び授業の基礎存在論の研究を行う。



上越讃歌

上越での私の25年間は、出会った人々との楽しい思い出のすべてといえます。都会の華やかな女子大から赴任してきた私にとって、初めは、すべてがモノクロの世界でした。でもやがて、幸いにも多くの地元の方々とのご縁が次々に仕込まれたり、また数多くの学生・院生たちや教職員の皆さんとの有意義な対話や交流を重ねたりするうちに、その印象はまったくと言っていいほど消え去り、豊かに務め、豊かに遊ぶことができました。

春は直江津沖合から妙高連山の白銀を眺めながら釣り糸を垂れ、夏は透明度の高い名立の海岸や佐渡ヶ島の海中で魚と格闘し、山肌が錦織に染まる頃には実りを求めて山中に分け入り、雪が積もれば人の踏み入らない雪原を自由に滑走する、そんな贅沢な日々を過ごしてきました。

デジタルではない本当のモノクロの世界を、ここ上越で味わうことができました。

すべての方々に感謝とお別れを！

退職教員から 皆さんへ



学校教育学系

教授 武嶋 俊行

プロフィール

神奈川県横浜市の公立中学校で35年間にわたり社会科教諭、そして管理職として勤務した。その後、平成20年4月、本学に大学院専門職学位課程教育実践高度化専攻が設置されるとともに実務家教員として着任。専門は学校経営論、学校組織論、学校危機管理論、学校行事論など。



さらば、我が“青春”の山屋敷よ！

平成20年（2008年）4月、本学に教職大学院が設置された時、実務家教員の1人として着任し、遂に7年の歳月が過ぎました。約束の任期を全うし、我が故郷の横浜へ戻る日が近づきました。内外のご支援ご協力によって教職大学院も軌道に乗り、私の職責も多少は果たせたかと思えます。教職大学院から巣立って行った幾多の俊英が全国各地で教壇に立ち、上越で蒔いた1粒の種から多くの花を咲かせようとしています。

今、山屋敷キャンパスでの過ぎし日々の懐かしいシーンが脳裡をよぎります。臨床共通科目の探究活動への助言、プロフェッショナル科目での現職院生との自由な意見交換、学校支援リフレクションでのゼミ生との語り、教員採用試験に挑む若き学卒院生に熱弁を振るった武嶋塾の夜。

人生の晩秋の時を迎えた今、上越教育大学で過ごした、この7年間こそが、紛れもなく我が“青春”の悔いなき日々でもあったのだと確信しています。そのような自負の持てることが、今の私のささやかな誇りです。



インタビュー 大学院で輝く人

やっぱり、先生になりたい

高校・大学と陸上部に所属し、今思えば目標に向かって走り続ける毎日でした。全国高校駅伝や全日本インカレ、走ることで「自分」を認めてもらえた気がしていました。

大学は教育学部に進みましたが、私の能力で教員採用試験を突破できると思えず、周囲に迷惑をかけまいと地元の民間企業に就職しました。何一つ不満はありませんでしたし、むしろ感謝すべき程の環境でしたが、心の引っ掛かりは消えませんでした。しだいに通勤中にはつい学校の様子が気になり、休日の陸上教室では子どもたちの笑顔や真剣な眼差しに心が奪われていきました。そして葛藤の末、最終的に行き着いたのは「やっぱり、先生になりたい」でした。

先生になるための学校

大学院の毎日は、「自分のやりたいこと」が常にできている実感があります。このように感じられるのも、上越教育大学大学院の魅力的なシステムと手厚いサポートがあるからだと思います。本学の授業は実践的な内容とその根底となる理論的な内容がバランスよく組み合わせられ、専門性を高めるゼミ活動も充実しています。また、教員採用試験対策として論作文添削、面接対応等のサポート体制も整っており、まさに「先生になるための学校」だと思います。そして、ストレートマスターと現職教員とが共に学べる環境は、最大の魅力です。



大学院1年
生活・健康系コース(保健体育)
秋山 澪さん

多様な見方や考え方に触れ、自分自身の教育観や教職観を更に深めていきたいです。

**幸運の女神は君の好きな道に微笑んでいる。
迷わずに好きな道を歩き給え。**

私は、この道を選んで良かったと現時点でも思えます。そして、好きなことを一生懸命やることはそれだけで自分を価値づけてくれることに気がきました。背中を押してくれた家族、支えてくれる多くの方々感謝し、これからも「自分らしく」頑張りたいです。



■聞き手・文(写真右)
大学院1年 生活・健康系コース(保健体育) 神子島 強

インタビューを終えて

明るく笑顔で周りを盛り上げてくれる秋山さんは、しっかり者で周囲から厚い信頼を寄せられています。様々な紆余曲折がありましたが、全てが今後の糧になると思います。互いに切磋琢磨し、教師力を身につけていきましょう！



アンケートにご協力ください
公式ホームページにおいて本誌に関するアンケートを実施しています。左のQRコードを読み込むことで、携帯端末からもご回答いただけます。
QRコードは(株)デンソーウェブの登録商標です。